

第3章 本市の文化の現状と課題

1. 宇都宮市の文化の現状

本市には長い歴史と伝統の中で培われてきた、市民の誇りとなる文化資源が数多く存在しています。本市の文化施策の実施にあたっては、これらの貴重な文化資源を尊重し、守り、伝え、さらにその価値を高め、文化を通じた人づくり、まちづくりまで広げていくことが必要です。

(1) 本市の歴史と伝統

本市は、中心市街地に今も鎮座する二荒の杜を中心に栄えた長い歴史を持つまちで、数多くの文化財等があります。特に大谷地区は、特別史跡である大谷磨崖仏や全国的に類を見ない奇岩群が平成18年に国の名勝指定を受けるなど、本市の観光資源となっています。



■ 二荒山神社の神楽殿



■ 大谷の奇岩群（御止山）

(2) 生活文化の継承

本市には、指定、未指定のお祭りや芸能、伝統工芸、伝統料理などの生活文化が各地域に残っており、現在でも地域の保存会や自治会などが中心となって、地域に根ざした伝統行事が行われています。



■ 菊水祭



■ くされ寿司

(3) 「宇都宮」の個性ある文化とそれを支える人々の存在

本市の文化活動は、全国的にも誇れる自主的な活動を行っている宇都宮市文化協会、文化財ボランティア協議会や伝統文化の後継者育成支援等に取り組む伝統文化連絡協議会、宇都宮の「ジャズ」を盛り上げようと組織された「うつのみやジャズのまち委員会」を始めとする各種文化団体、文化人による市民主体の活動に支えられ発展を続けています。



■ 市内のジャズイベント



■ うつのみや百人一首市民大会

(4) 質の高い芸術文化に触れ、学ぶことが出来る環境

本市は、県内最多の座席数を誇る大ホールを持つ「宇都宮市文化会館」や全国の公立美術館に先駆け、デザイン作品収集に力を入れ全国的にも高い評価を得ている「宇都宮美術館」、さらに「市民ギャラリー」などの観賞・発表の場を有しており、市内外の多くの方に質の高い芸術文化にいつでも触れていただける環境を整えてきています。また市内には文化芸術系の教育施設等も多く存在しており、文化芸術を学ぶ機会にも恵まれています。



■ 宇都宮市文化会館



■ 市民ギャラリー

2. 前計画（H18～H27）の評価

これまで本市では、基本理念である「歴史と個性を活かした宇都宮文化の創造と心豊かな人づくり」の下、3つの基本方針と、それを構成する基本施策を推進してきました。各基本施策の取組の達成状況は次のとおりです。

（1）基本方針Ⅰ「自主的な文化芸術活動を展開しやすい環境づくり」

自主的な文化活動が展開しやすい環境づくりを進め、おおむね関連事業を達成することができたといえます。しかしながら成果指標では文化活動をしている市民の割合が下がったという結果になっています。計画期間の10年間に於いて本市の文化振興を牽引する人材が育ってきたこともあることから、今後はこういった人材の活用や市民ニーズを捉えたきめ細かな事業を展開していく必要があります。

指 標 名	目 標 値 (H27)	実 績 (H26)	目標値との 差
文化活動をしている市民の割合(※)	80%	63.9%	△16.7%

※文化活動者及び一般市民の結果を合算

（2）基本方針Ⅱ「文化遺産・伝統文化などを活かし、伝える仕組みづくり」

文化財の保存・継承などの活動を支援する仕組みとして、市の活動費補助金の充実や、伝統文化連絡協議会のサポートなどにより、徐々に文化財保存団体数が増加し成果指標が目標値を達成しています。ただし、「大谷の文化的景観保存事業の推進」については、住民理解の促進や関係機関との連携が十分できていないことから、推進体制の見直し等が必要と考えられます。

指 標 名	目 標 値 (H27)	実 績 (H26)	目標値との 差
文化財保存団体数	51 団体	52 団体	+ 1 団体

（3）基本方針Ⅲ「文化資源を活用した宇都宮の特色づくり」

「観光・産業振興との連携」や「文化芸術交流の促進」はおおむね達成できましたが、「大谷に関して活用の強化」に関しては、目標値に達成せず、本市の魅力を十分に発信できなかったことが伺えます。

指 標 名	目 標 値 (H27)	実 績 (H26)	目標値との 差
宇都宮の伝統や文化に個性や魅力を感じている市民の割合	50%	26.2%	△23.8%

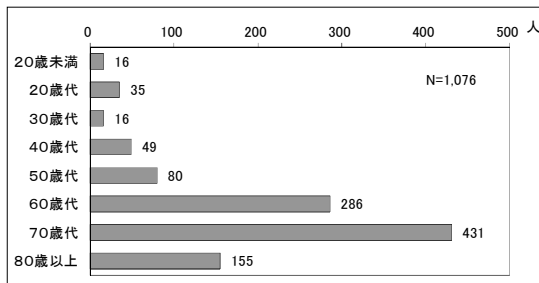
3. 市民アンケート結果

下記のとおり市民の文化に関する活動状況や意識に関する調査を、一般市民や文化活動者、文化団体などを対象に実施しました。調査の結果は概ね次のようにまとめることができます。

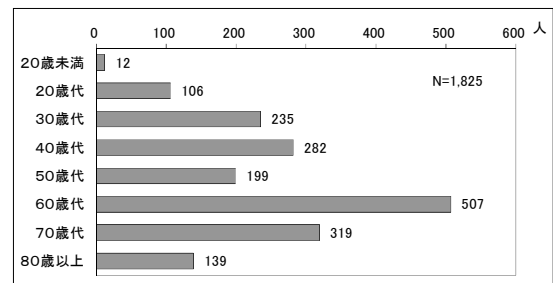
(1) 調査の概要

本調査では、文化団体関係者を調査対象とするタイプ A と一般市民を調査対象とするタイプ B の 2 種類の調査を実施しました。なお、両タイプには同じ調査表を配布しました。

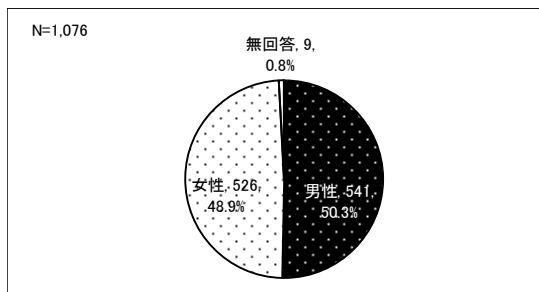
	タイプ A (以下, A)	タイプ B (以下, B)
調査地域	宇都宮市全域	
調査対象者	文化団体関係者	満 18 歳以上 90 歳未満の市民
発送標本数	1,524 人	3,500 人
抽出方法	各文化団体データより抽出	住民基本台帳による無作為抽出
調査方法	郵送法	郵送法
調査期間	平成 27 年 3 月 13 日から 3 月 31 日	平成 27 年 3 月 13 日から 3 月 31 日
回収標本数	1,076 人 (70.6%)	1,825 人 (52.1%)
調査の特徴	・文化団体に所属して活動を行う市民の意向を把握できる。	・全市民の意向を把握することができる。



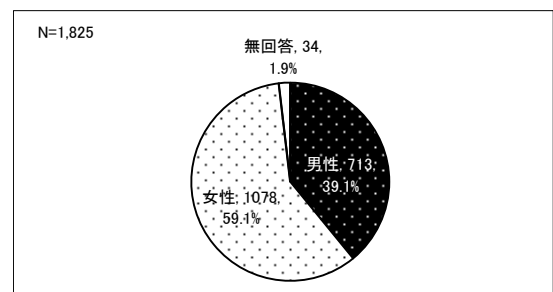
回答者の年齢構成 (A)



回答者の年齢構成 (B)



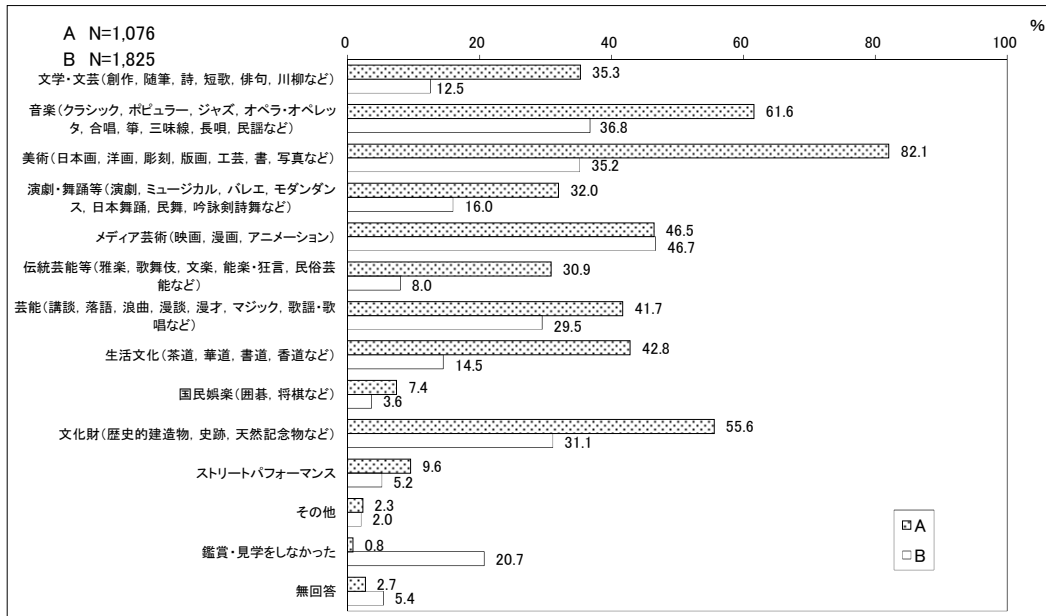
回答者の男女比 (A)



回答者の男女比 (B)

(2) 文化活動の状況について

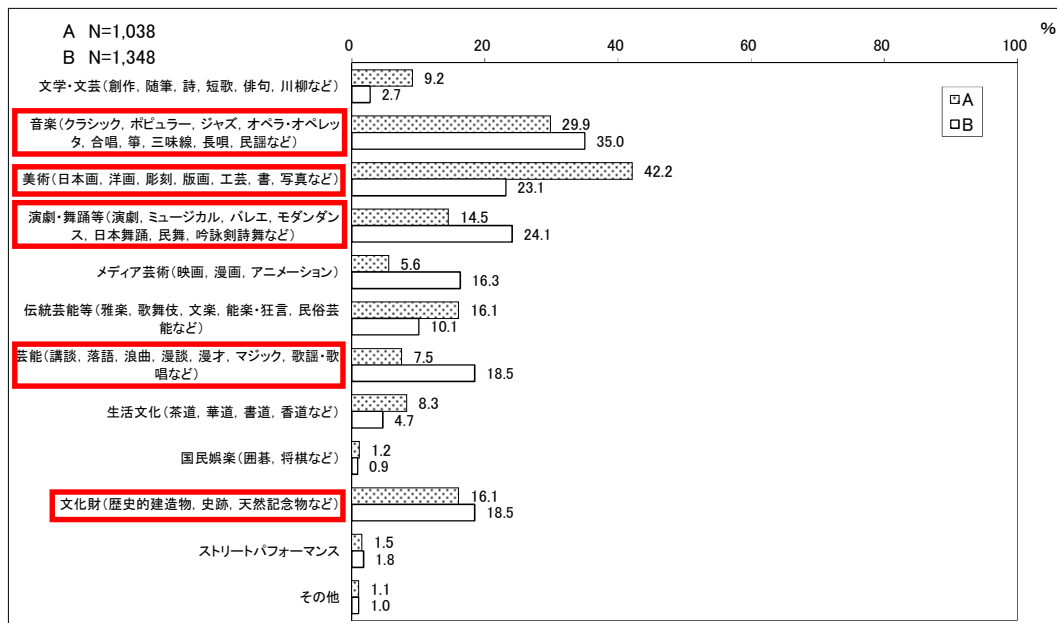
①鑑賞・見学の状況（複数回答可）



1年間に行った「文化芸術」の鑑賞・見学の分野について、B(全市民対象)を見ると、「メディア芸術(46.7%)」が最も多く、次いで「音楽(36.8%)」、「美術(35.2%)」、「文化財(31.1%)」となっています。

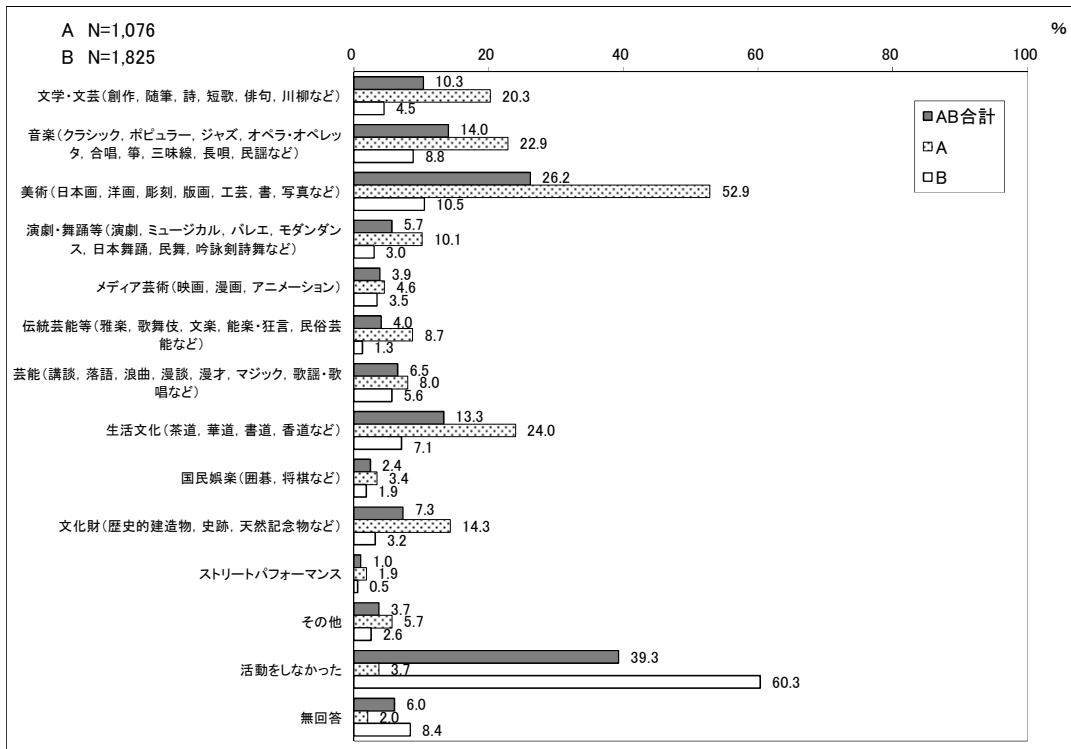
また、「鑑賞・見学をしなかった」が20.7%で、平成21年度調査(以下、前回調査)の22.6%より1.9%減少しています。

②今後鑑賞・見学を行いたい分野(2つ選択)



今後鑑賞・見学を行いたい分野について、B(全市民対象)を見ると、「音楽(35.0%)」が最も多く、次いで「演劇・舞踊等(24.1%)」、「美術(23.1%)」、「文化財(18.5%)」、「芸能(18.5%)」となっています。

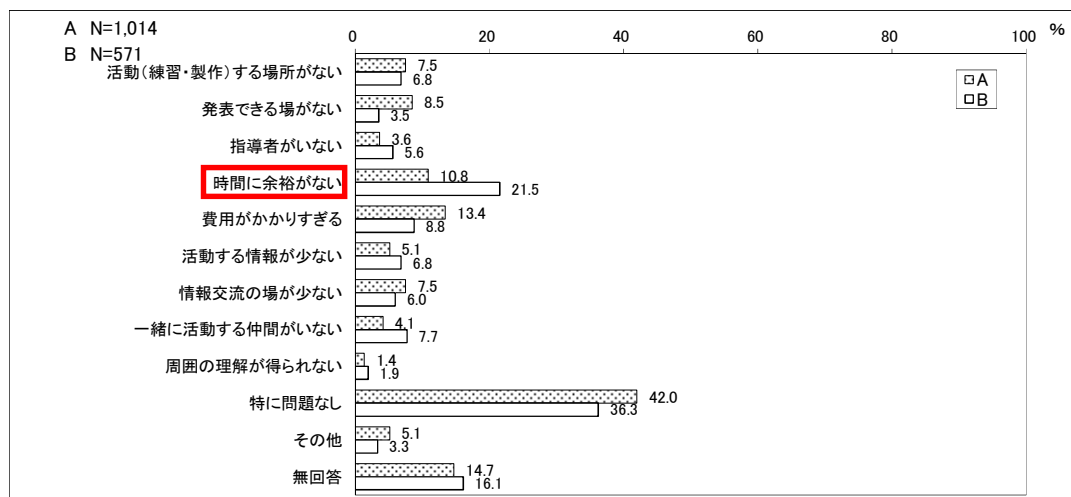
③日頃行っている「文化活動（鑑賞・見学は除く）」について



日頃行っている「文化活動（鑑賞・見学は除く）」について、B（全市民対象）を見ると、「美術(10.5%)」が最も多く、次いで「音楽(8.8%)」、「生活文化(7.1%)」となっています。

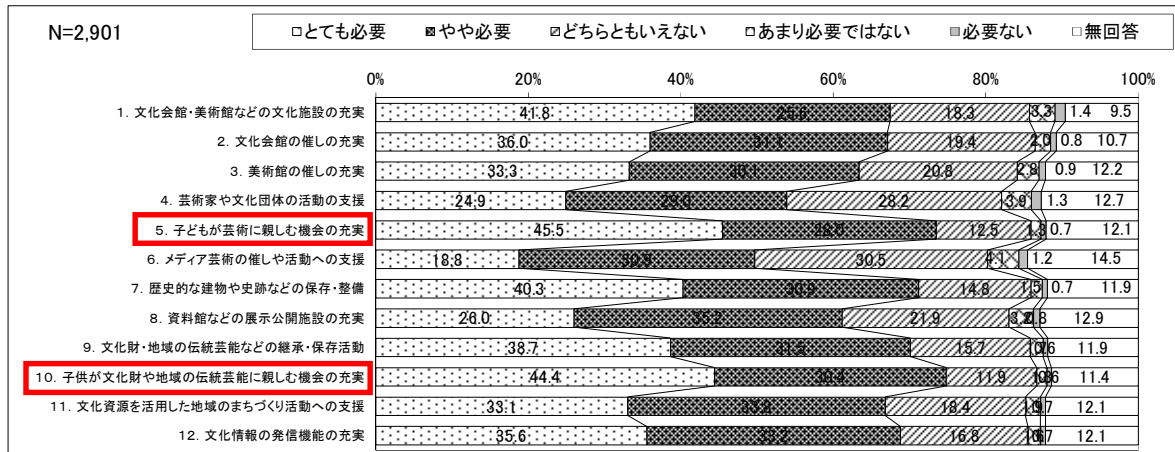
また、「活動をしなかった」はB（全市民対象）では60.3%となっており、前回調査の56.7%より3.6%増加しています。

④「文化活動（鑑賞・見学は除く）」で問題を感じたこと、困ったことについて



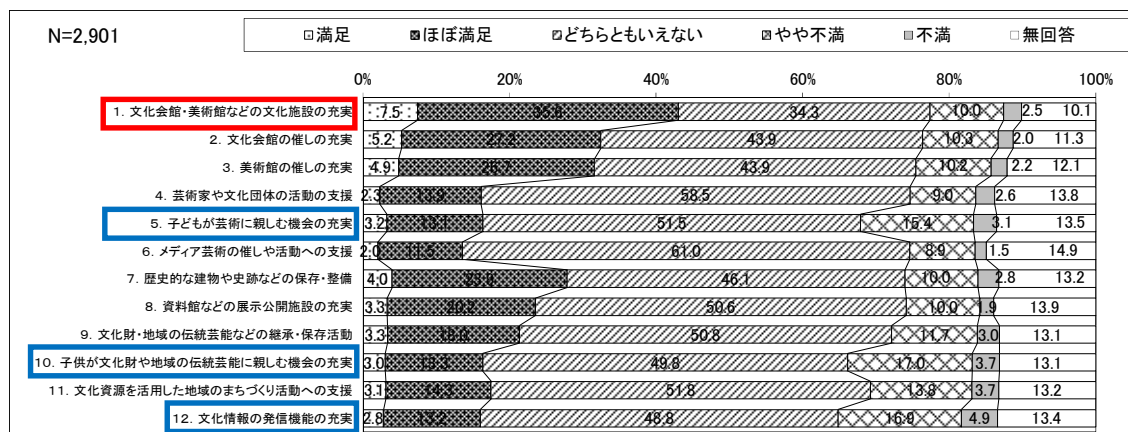
「文化活動（鑑賞・見学は除く）」で問題を感じたこと、困ったことについて、B（全市民対象）を見ると、「時間に余裕がない(21.5%)」が最も多く、回答者は20歳代から40歳代が多い傾向にあります。

(3) 環境整備の必要性について (A・B 合計)



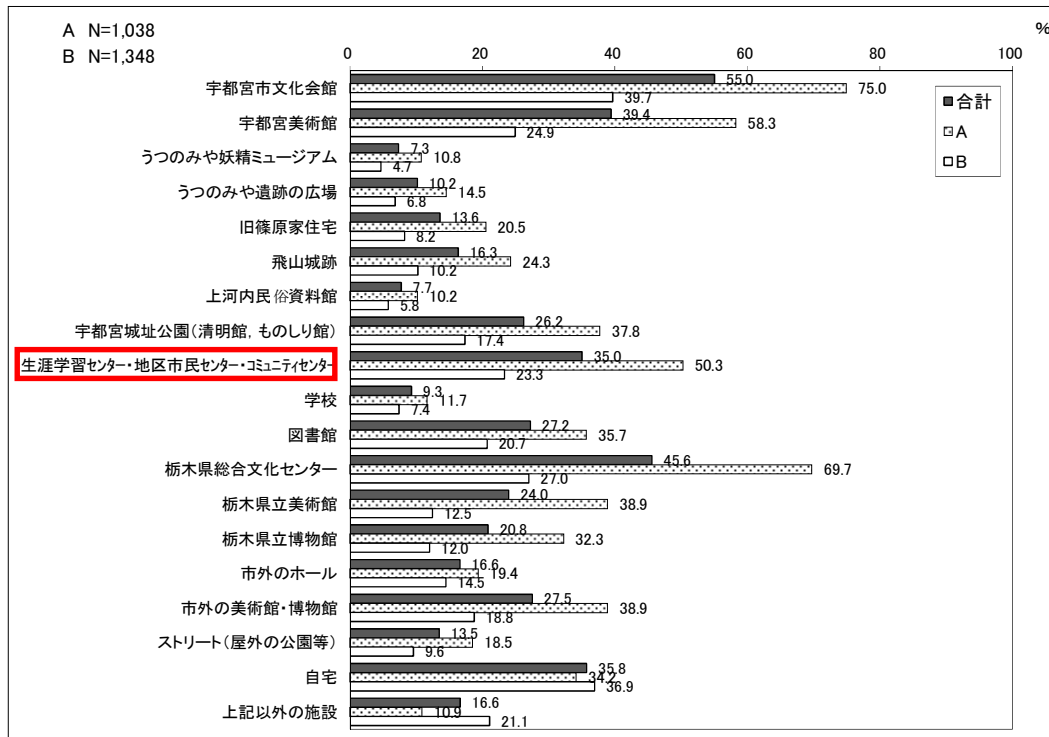
環境整備の必要性については、「子供が芸術に親しむ機会の充実」と「子供が文化財や地域の伝統芸能に親しむ機会の充実」が、とても必要、やや必要が、73%を超える高い結果となっており、子供を対象とした取組に関するニーズが高くなっています。

(4) 文化をめぐる現状に対する満足度 (A・B 合計)



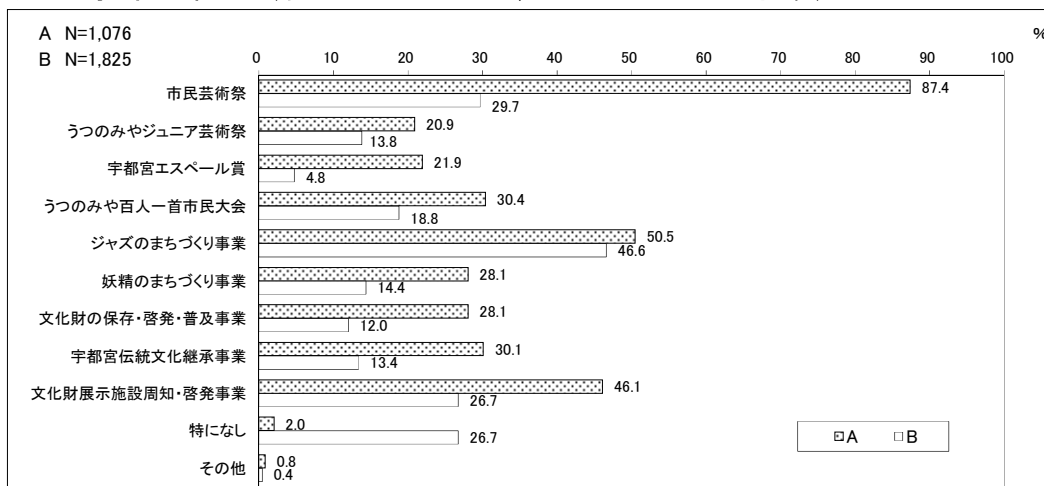
文化をめぐる現状に対する満足度について、「文化会館・美術館などの文化施設の充実」の「満足・ほぼ満足」が43.1%と高い結果となっている一方で、「不満・やや不満」については、「文化情報の発信機能の充実(21.8%)」、「子供が文化財や地域の伝統芸能に親しむ機会の充実(20.7%)」、「子供が芸術に親しむ機会の充実(18.6%)」が2割前後となっており、不満を感じる市民が多いことが伺えます。

(5) 「鑑賞・見学」の場所（複数回答可）



「鑑賞・見学」の場所については、A・Bの合計を見ると「宇都宮市文化会館」(55.0%)が最も高く、次いで「栃木県総合文化センター」(45.6%)、「宇都宮美術館」(39.4%)となっています。また、前回調査と比較すると「生涯学習センター・市民地区センター・コミュニティセンター」が増加しています。(前回 30.0%⇒今回 35.0%)

(6) 文化事業の認知(参加したことがある、または知っている事業)



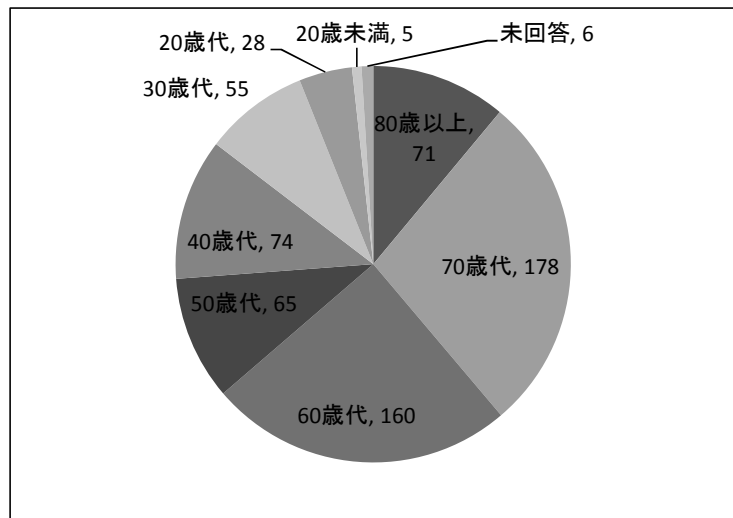
参加したことがある、又は知っている事業について、Aは「市民芸術祭(87.4%)」が最も多く、次いで「ジャズのまちづくり(50.5%)」、「文化財展示施設周知・啓発(46.1%)」となっています。Bは「ジャズのまちづくり(46.6%)」、「市民芸術祭(29.7%)」、「文化財展示施設周知・啓発(26.7%)」となっています。

(7) 自由意見

・ 総数 642 件

・ 年齢構成

年齢	件数
20 歳未満	5
20 歳代	28
30 歳代	55
40 歳代	74
50 歳代	65
60 歳代	160
70 歳代	178
80 歳以上	71
未回答	6
合計	642



自由意見の一部

20 歳代	文化活動に興味があるが、いつどこでやっているのか、発表しているのか、情報がもっとほしいです。
20 歳代	もっと多くの人が気軽に文化・芸術に触れる機会を増やしてもらいたい。情報発信力の向上と、身近な場所（ショッピングモール等）での展示、若年層が興味を持てる内容の展示物を充実させてほしい。
20 歳代	意見としてですが、今の若い人達が文化に関しての前に宇都宮に関して良く知っているのかと言ったら違うと思います。栃木県にはまだまだ歴史や古い物が沢山あります。まず、文化と共に栃木県に関しても若い人達に関心を持ってもらえるような文化作りをしていかなければならないのでしょうか。私自身メディア系が好きでアニメ、まんがを読ませていただいたり、見させていただいたりしています。しかし宇都宮でアニメフェスタなどが行われている事を知りませんでした。知らないのもそうですが、関心を寄せるようなものは無いと思うのです。情報の入手の少なさも1つかなと思います。
30 歳代	地区市民センターに本を借りに行ったり、学校関係、地区関係の集まりの時、版画などを飾ってあるので目に留まります。気軽に芸術に出会う事が出来るので、もっと色々イベントなどをやってほしいと思います。子供達も、来ている事が多く、自然とふれあえて良いのではないかと思います。車で出掛けて見に行くことも良いですが、身近な場所にあるのも良いと思います。
40 歳代	昔から地域に根付いたものは、とてもすばらしいと感じますが、（地域の祭りなど）外から来て、日が浅いと、敷居が高く感じるような感覚がある。宇都宮市は、文化を身近に感じられる施設がとても充実していると思うので、それを有効活用し、気軽に足を運べるように、「あ、行ってみたいな」と思うような、ものを（催し）期待しています。
50 歳代	美術館、博物館は町の中心部に置き、普段の生活に接していないと文化は育たないと思う。文化的活動をしようとする個人に対して、もっと広報、場の提供等の協力をしてほしい。
60 歳代	「文化」は一朝一夕に養われるものではない。やはり小さい頃からの環境が物を言うと思う。学校教育、社会教育など、もちろん家庭教育も含めて色々な場所で「文化」を体験できる環境をつくって行く必要があると思う。
70 歳代	私も自分の趣味を 30 年以上続けておりますが、若い方に中々入会してもらえず非常に残念です。伝統芸能を引き継いでほしいです。
80 歳以上	10 数年、仲間と趣味として絵画制作をつづけていますが、定期的に成果発表する適当な会場が無く困っています。使用料が高額、駐車場が無いなどのため。市民センターなど使用できるとよい。

4. 本市の文化振興の役割と今後重点的に取り組むべき課題

ここでは、第2章の本市のまちづくりの動向と文化の位置付けを踏まえ、本市の文化振興に求められる役割を整理するとともに、「文化を取り巻く環境の動向」、第3章の「宇都宮市における文化を取り巻く環境の変化」「前計画の推進状況」「市民アンケート結果」を踏まえ、本市の文化振興の役割と文化振興に係る課題をまとめました。

(1) 本市の文化振興に求められる役割

本市のまちづくりの動向と文化の位置付けを踏まえ、本市の文化振興に求められる役割について、以下の3つに整理しました。

①創造できる人づくり

文化振興により、次代の宇都宮を築き、担うことのできる意欲や能力、やさしさや思いやり、さらには新しい価値を創造しうる世界的で幅広い視野を持った人材の育成が求められます。

特に、「宮っこ未来ビジョン」に21世紀社会を生き抜くために重要な能力と位置付けられた「創造する力」の育成は、文化振興に求められる大きな役割と言えます。

②都市の個性づくりと発信

文化の振興により、歴史的な価値を持つ建造物、伝統文化や美しい自然など、本市固有の資源や地域特性などを生かし、独自の文化を創出し、都市としての個性を磨き上げ、全国にアピールしていくことが求められます。

また、将来目指すべき人口目標の達成のためにも、本市の魅力を広く市外、県外に発信することで、来訪者の増加を図るとともに、本市での定住を促進することが文化振興に求められる大きな役割の一つと言えます。

③魅力ある拠点の創出

これからのまちづくりに求められる機能を備えた本市独自の多核連携型の都市構造である「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成に向け、本市の文化の魅力を発信する機能などを集積し、魅力と活力のある拠点形成に寄与することが、文化振興に求められる大きな役割と言えます。

(2) 今後重点的に取り組むべき課題

ここでは、前節の本市の文化振興に求められる役割を踏まえて、第2章の「文化を取り巻く環境の動向」、第3章の「宇都宮市における文化を取り巻く環境の変化」「前計画の評価」「市民アンケート結果」から、今後重点的に取り組むべき課題をまとめました。

課題1 市民の文化体験及び活動のための環境づくりや情報発信の充実

市民アンケートの結果を見ると、市民の「文化活動」が停滞気味にある状況が見受けられることから、市民がくらしの中で伝統を意識したり文化鑑賞や活動に取り組み、より豊かで充実した生活を過ごせるよう、市民がより気軽に学んだり鑑賞や活動ができる環境づくりが必要です。本計画期間は、夏季オリンピック・パラリンピック東京大会や国民体育大会の開催など、国内外へ情報を発信する好機に恵まれており、また、文化情報の発信に関する市民ニーズが高い状況にあることから、宇都宮の誇るべき文化や様々な文化活動情報等に、市民や観光客等が自在に触れることができるように、文化に関する情報発信を充実させていくことが必要です。

課題2 文化を支え、担える人材の育成・活用

文化は、創造性などの豊かな感性や地域社会の連帯意識などの社会性、世界的な幅広い視野などを養う力を持った「公共財」であり、また、地域的な個性を帯びた「公共財」でもあります。また文化に子供が親しむ機会を充実させる必要性に関する市民意識は高い状況にあります。

次代の宇都宮を築き、新しい価値を創造しうる幅広い視野を持った人材を持続的に育成できるよう、文化を支え・担う人材の育成を推進し、創造性や社会性、世界的な視野などを備えた人材を育成することが必要です。

前計画期間において、本市の文化振興を牽引する人材が輩出されている状況であることから、このような文化を先導する人材が、その力を活かし、新たな文化の創造や次世代の人材育成に携わることができる仕組みや環境づくりが必要です。

地域の文化財や伝統芸能を守り伝えている人々の高齢化や担い手不足が引き続き問題となっていることから、後継者育成のための支援体制を強化することが必要です。

課題3 誇りとなる「宇都宮文化」の創造・継承

人口減少時代に対応した「成熟都市」の実現に向けて、独自の文化を創出し、都市としての個性を磨き上げていくことが求められています。本市は、魅力的な歴史や多様な文化的資源を有しているものの、市民のアンケートにおいては、宇都宮の文化が分からないという意見が聞かれる状況にあります。

豊かな自然環境と人々の営みによって形成された、本市の多様な文化的資源の調査・評価、あるいは、新たな視点や価値観を加えた再評価といった価値への追求を進めるとともに、その価値を市民がふれることができる「カタチ」で表現し、市民が誇りや愛着を感じる「宇都宮文化」を創造していく必要があります。

「宇都宮文化」を構成する重要な要素である文化財や自然環境、建造物、作品など、多様な価値を生み出す公共財について、価値の低下や破壊から守り、次世代に引き継いでいく必要があります。

課題4 文化の力の活用（文化を通じた人と人の絆の強化）

文化は、豊かな人間性と創造性を育み、人と人を結び付け、絆を強めるもの、さらには成熟社会における成長の源泉となり、地域の豊かな発展や多方面の分野への波及効果が高い公共財です。本市でも、「観光拠点」に位置付けられた「大谷周辺地域」は、本市を代表する観光資源であると同時に、貴重な文化財や文化資源でもあり、文化振興による観光分野への波及効果が期待されています。

一方で、様々な分野において、文化の力が活用され、普及していくことは、本市の文化の発展にもつながるものでもあります。

このように、多方面の分野への波及効果を持つ公共財である文化の効用が、本市の様々な分野のまちづくりで活かされ、都市全体の活性化につながるよう、他分野と連携したまちづくりの推進が必要です。